

老齢動物の病気について(1)

前号の睡眠や精神疾患に効果のある「サプリメント」に続き、「動物に処方される薬品」からお話ししましょう。

通常、動物の睡眠や精神疾患が、その動物や飼いさんの生活に大きな影響が及んでいる場合に、薬品は処方されます。

睡眠障害には入眠障害や夜間覚醒があり、薬品ではメラトニンまたはメラトニン受容体作動薬（体内時計に関わる）や抗ヒスタミン剤がよく使われます。行動異常としては、過剰発声（夜鳴きや吠え続ける）、分離不安、恐怖症（雷、人、車などに対する）などがあります。これらには、抗不安作用や常同行動の軽減を目的として抗セロトニン薬、さらに鎮静作用を目的してベンゾジアゼピン系抗精神病薬（鎮静薬）が処方されます。さらに人や動物に対する攻撃性がある常同行

動、幻覚様行動には、フェノバルビタールやガバペンチンなどの抗てんかん薬を使用する場合もあるでしょう。

これら薬品の多くは睡眠・麻酔薬や向精神薬の範疇に属する薬で、薬剤が効き過ぎると循環や呼吸にも影響して命の危険を伴う可能性があるため、事前に検査により腎臓・肝臓での薬物の代謝や排泄が正常に行われるかどうかの評価が必要になります。最近このような薬剤を用いて親を死に至らしめてしまった事例が芸能ニュースで話題になりましたね。

これらの薬品の中には「劇薬」「向精神薬」に指定され、保管や取り扱いを厳重にしなければならないものが多くあります。必ずその個体に処方されたものを、処方された投与法に従い慎重に与えなければなりません。

その他には、フェロモンを用いて動物の不安を抑え

認知機能不全症候群⑧

「認知症の治療と予防(8)」



文・写真 中西章男
text & photo by Akio Nakanishi



たり気持ちをリラックスさせたりして、睡眠障害や精神疾患を緩和させる製品があります。フェロモンはその動物種固有のもので、他の動物種には効果がありません。

過去には犬用のものもありましたが、現在日本で入手可能なものは猫用の「フェリウェイ」だけです。スプレーと拡散タイプ（コンセントに挿してリキッドタイプの蚊取りのように使用する）があります。猫の頬から分泌される仲良しフェロモン（仲間を認識し交戦の意思がないことを知らせる）である、フェイスナルホ

ルモンF3という物質を合成したものです。猫を落ち着かせたい場所にスプレーします。拡散タイプは部屋全体にいきわたります。7割の猫にある程度の効果があった、との報告があります。この製品は犬やその他の動物には効果はありません。

薬物療法は適切に行う必要があります。薬をあげているからそれで良いということではなく、サプリメントを併用したり、飼い主さんとのスキンシップや動物が落ち着く環境を整えてあげたりすることも同じぐらい大切です。



Profile

獣医師・獣医学博士。1959年生。1986年日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）大学院博士課程卒。大学ではフィラリア症の血行動態、腫瘍および外科の免疫について研究。1987年東京都杉並区で「阿佐谷ペットクリニック」を開院。小動物の総合診療医として犬猫のみならずウサギ、小鳥、ハムスター、モルモットなど数々の動物を診療してきた。趣味：ゴルフ、モータースポーツ、機械いじり、動物たちとの戯れ。著書：『車イスに乗ったチロ』集英社